

岡山県立倉敷まきび支援学校 いじめ問題対策基本方針

いじめに関する現状と課題

- 本校は知的障害部門と肢体不自由部門の小学部から高等部までの児童生徒が在籍している。知的障害部門高等部には生活コースと職業コースを併設しており、実態も多様である。児童生徒の問題を早期に発見することはとても大切であるが、いじめに対する加害・被害の自覚が薄い場合や、いじめられていることが認識できにくい児童生徒もいると考えられるので、周囲の状況から客観的にいじめの有無を確認し、積極的に認知を行う必要がある。高等部では、携帯電話やスマートフォン等の利用が増加しており、情報モラルの低下も懸念されている。ネット上のいじめを防ぐためにも、警察などの関係機関と連携して、望ましいインターネットの利用方法についての指導を継続的に取り組んで行く必要がある。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

- いじめの未然防止に向けた児童生徒の主体的な活動を進めるとともに、誰もが活躍できる機会を設けることで、自己肯定感や充実感を感じられる学校づくりを進める。
- 学校全体で鉄道等による登下校の安全確保とトラブルの未然防止に取り組む。
- 視聴覚・情報教育係が中心となって児童生徒のSNS等の利用における情報モラルについての教育の推進を図る。
- いじめの早期発見のために、記述や口頭等によるアンケートを生徒指導係が企画し実施。そこで得られた特に必要な情報は教職員間で共有を図る。

【 重点となる取組 】

- 児童生徒が集団としていじめを未然に防止する力を育成するため、行事等で集団の中での役割を自覚し、責任を果たすことで自己有用感や充実感を得られる活動を展開する。
- 児童生徒のSNS等インターネットの利用実態を踏まえ、高等部では各学年において全ての生徒に対して情報モラルに関する授業を情報の授業内で実施する。

